

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年3月18日 (2010.3.18)

【公開番号】特開2007-241289(P2007-241289A)

【公開日】平成19年9月20日 (2007.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2007-036

【出願番号】特願2007-58290(P2007-58290)

【国際特許分類】

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1343 (2006.01)

G 0 2 F 1/1368 (2006.01)

【F I】

G 0 9 F 9/30 3 3 0 Z

G 0 2 F 1/1343

G 0 2 F 1/1368

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月29日 (2010.1.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基板上に形成される信号ラインと、
前記信号ラインと電気絶縁状態で交差して前記基板上に形成されるリペアラインと、
前記信号ラインと前記リペアラインとが交差する前記基板の第 1 領域と絶縁されるように重なる第 1 リダンダンシ導電パターンと、
を含むことを特徴とする表示装置。

【請求項 2】

前記第 1 リダンダンシ導電パターンが電氣的にフローティングしていることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 3】

前記信号ラインのリペア時に、前記信号ラインと前記リペアラインが前記第 1 領域で前記第 1 リダンダンシ導電パターンに電氣的に接続されることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 4】

一側部と前記信号ラインとが前記基板の前記第 1 領域とは異なる第 2 領域で絶縁されるように重なり、他側部と前記リペアラインとが前記基板の前記第 1 領域とは異なる第 3 領域で絶縁されるように重なる第 2 リダンダンシ導電パターンをさらに含むことを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 5】

前記第 2 リダンダンシ導電パターンが前記第 1 リダンダンシ導電パターンと離間、または一体化することを特徴とする請求項 4 に記載の表示装置。

【請求項 6】

前記信号ラインのリペア時に、前記信号ラインと前記リペアラインとが前記第 1 領域で第 1 リダンダンシ導電パターンと共に電氣的に接続され、

前記信号ラインと前記第 2 リダンダンシパターンとが前記第 2 領域で電氣的に接続され

、

前記リペアラインと前記第 2 リダンダンシパターンとが第 3 領域で電氣的に接続されることを特徴とする請求項 4 に記載の表示装置。

【請求項 7】

前記信号ラインがコンタクトホールを介して前記第 2 リダンダンシ導電パターンに電氣的に接続されることを特徴とする請求項 4 に記載の表示装置。

【請求項 8】

前記信号ラインのリペア時に、前記信号ラインと前記リペアラインとが前記第 1 領域で第 1 リダンダンシ導電パターンと電氣的に接続され、

前記信号ラインが前記第 2 領域で前記第 2 リダンダンシ導電パターンと電氣的に接続されることを特徴とする請求項 7 に記載の表示装置。

【請求項 9】

前記リペアラインがコンタクトホールを介して前記第 2 リダンダンシ導電パターンと電氣的に接続されることを特徴とする請求項 4 に記載の表示装置。

【請求項 10】

前記信号ラインのリペア時に、前記信号ラインと前記リペアラインが前記第 1 領域で前記第 1 リダンダンシ導電パターンと電氣的に接続され、前記リペアラインが前記第 3 領域で前記第 2 リダンダンシ導電パターンと電氣的に接続されることを特徴とする請求項 9 に記載の表示装置。